

事業所名 グループホーム「さいわいの郷」
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月 4日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 理学療法士
資格・経験 障害児施設勤務(20年)、理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
B:現職 訪問看護師
資格・経験 看護師(37年)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ・理念に基づいた年度目標を立て、業務日誌にも今月の目標として毎日書き入れ、お互いに意識し合いながら入居者と向き合う職員の姿勢を一つにし、日々ケアにあたっている。入居者一人ひとりがその人らしく、自然に、楽しみを持って暮らしていけるように支援している。 ・理念は、パンフレットや重要事項説明書にも明記されており、ホームの説明会や運営推進会議などでも説明するなど、ホームが地域の方々に理解され、受け入れられるように働きかけており、職員の資質やケアの技術を高め、地域に貢献するホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ・入居者一人ひとりの好みやペースに合わせ、自然に活動できるように支援している。好きなテレビ番組を見たり、ゲームを楽しんだり、行きたい時に自由にテラスを散歩したり等、入居者が居たい場所をしたいことを自由にして過ごせるように支援している。また、食事前にテーブルを拭いてもらったり、花好きの方にはお世話を願ったりなど、得意なことや好きなことが自分からやりたくなるように働きかけている。 ・管理者・職員は、入居者一人ひとりの特徴に合わせた対応を心がけている。急がせる事なく、その人のペースに合わせて穏やかに声をかけ、入居者の意思を確認してから動作を促し、援助している。 ・屋内でも天候や気温が分かるよう、外気を取り入れたり、調理の匂いをききかけに会話を交わすなど、入居者の家族の一員として自然に接し、入居者が落ち着いた気持ちで過ごせるよう家庭的な空間作りを行っている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) ・公共施設や郵便局、スーパーマーケットなどの商業施設が立ち並び、活気に満ちた場所にホームはある。母体となる医療機関の3階部分にあり、各ユニットの窓からは、北に竜ノ口山、南に操山と四方の山々を見渡せ、入居者は眼下の喧騒とは無関係の静かな環境で穏やかに暮らしている。 ・2つのユニットは、共有の玄関ホールで繋がっており、入居者はユニット間を行き来したり、玄関先の広いテラスに出たりして自由に活動している。ホームの行事の際には、一方の畳コーナーを舞台に設け、家族や地域のボランティアが参加して2ユニット合同での催しを楽しんでいる。 ・岡山神社への初詣や里山センターでの散策、県立美術館での作品鑑賞、町内の催しへの参加等々、計画を立てて外出しており、入居者の希望を聞きながら、時節を感じたり楽しんだりできるよう積極的に取り組んでいる。 ・併設してある同法人の通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援センターとの連携体制を取りながら、入居者の健康で安心な暮らしを支えている。また、法人の有する機能を地域へ還元し、地域との関わりも深めている。町内会や老人会の活動に参加したり、近所の商店を利用する等、近隣の方々と交流も深めており、ホームが地域に根ざしたものとなるよう努力している。
特に改善の余地があると思われる点(記述) 特に改善の余地があると思われる点はない。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症への理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ・一日の生活援助表には、「本人がする事」として自室の掃除や体操などが予定されており、職員と一緒に楽しみながら入居者一人ひとりの持てる力を発揮できるように支援している。お正月の食事作りでは、船で調理をされていた方に伊勢海老の茹で方を教わったり、入居者の方に昔の風習等を尋ねたりしながら和やかな時間を過ごしている。 ・入居者一人ひとりの尊厳を重んじ、穏やかに自然な対応が行えるよう、介護勉強会などで言葉遣いやマナーについても学んでおり、より良い介護を入居者に提供できるよう取り組んでいる。 ・重要書類はすべて事務室で管理し、個人情報漏洩しないよう十分に留意している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ・法人全体での研修会や感染委員会、美化委員会、ヒヤリハット検討会、介護運営委員会などが毎月開かれている。職員は外部での研修にも積極的に参加しており、毎月のミーティングでは業務の見直しや勉強会を行っている。また、感染マニュアル、環境整備マニュアルなどの各種マニュアルも整備しており、ホーム全体で情報を共有し、統一したサービスを入居者に提供できるように取り組んでいる。 ・職員は、理念に基づいて立てた目標に対しての自己評価を半年ごとに行っており、全職員が意欲的にケアサービスの質を高めていけるよう努力している。 ・法人合同での防災訓練のほかにも、ホーム単独で年2回避難訓練を行っている。入居者も参加し、緊急時の連絡方法や避難経路の確認を行い、非常時に備えている。近くにある幡多消防団の協力も得ており、講習会などにも参加している。また、運営推進会議でも地域の方々の協力をお願いしている。		